



[HOME](#) [仏教](#) [仏像](#) [名所旧跡](#) [スナップ](#) [グロマコン](#) [経営コンサルタント](#)

【カシャリ！ ひとり旅】

東京北区石神井川沿いのウォーキング 6

北区 源頼朝の布陣伝承のある「金剛寺」

JTBパブリッシング社の「東京自然を楽しむウォーキング」を参照して、2021年3月に、北区のJR王子駅から、板橋区の都営三田線・板橋区役所前駅までの約6kmを、桜をモチーフに楽しみました。

東京都北区

<http://www.city.kita.tokyo.jp/>

区のサイトによりますと北区は、下記のように紹介されています。

北区は、江戸時代から飛鳥山の桜、石神川||の滝や紅葉といった四季の変化を楽しむことができる行楽地として知られていました。現在も、これらの自然をはじめ、荒川や石神井川などの4つの河川に恵まれた緑あふれるうるおいのまちです。

JRや地下鉄、都電などが区内を走り、商店街がにぎわう便利で活気のあるまちでもあります。

令和6年には、近代日本経済の礎を築いた渋沢栄一が新一万円札の顔として登場。渋沢は、61歳から亡くなる91歳までの30年間、飛鳥山の一角を本邸として過ごし、その邸宅の一部も残り、また渋沢資料館として一般公開もされています。

北区基本構想では、将来像として、「ともに作り未来につなぐときめきのまち ～ 人と水とみどりの美しいふるさと北区」を掲げ、その実現に向けて努力しています。



面積	20.61km ²
総人口	353,431人（推計人口、2021年2月1日）
人口密度	17,149人/km ²
区の木	サクラ（1972年12月25日制定）
区の花	ツツジ（1972年12月25日制定）

■ 東京都北区王子

王子（おうじ）は、東京都北区のほぼ中央部に位置し、東北新幹線、京浜東北線などが南北に貫通し、それに並行するように国道122号（北本通り）が走っています。その通り沿いには、王子随一の繁華街があります。

昭和40年代までは、渋沢栄一で知られる旧王子製紙（過度経済力集中排除法による会社分割前の王子製紙であり現在の同名企業とは異なる）の工場や社宅が多く立ち並んでいました。

徳川8代将軍吉宗の時代から桜の名所として知られる王子ですが、日本で最初に制定された公園として知られる飛鳥山公園があります。見落とされがちなのが、桜並木の美しい石神井川（しゃくじいがわ）を遡り旧中山道の板橋宿まで続く遊歩道です。

【注】 本文は、北区サイトより引用して作成

■ 北区金剛寺へ

王子駅から王子親水公園を経て、石神井川（音無川）沿いに、川を上ってきますと、もみじの葉の形をしたがらの入った紅葉橋が見えてきます。

橋のたもとから南の用を見ますと金剛寺の屋根が見えます。

鎌倉幕府をつくった源頼朝が、幕府を開く前に、安房国（千葉県）から、鎌倉に向かって進軍するときに、この地を経由しました。



【北区教育委員会資料】

治承四年（1180）八月、源義朝の三男であります源頼朝は、配流先の伊豆国で兵を挙げました。初戦で勝利しましたが、石橋山の合戦で破れて、安房国に逃れました。その地で上総国・下総国の諸将を味方につけることができ、隅田川を渡ります。

源頼朝の布陣伝承地

滝野川三・八八・一七 金剛寺境内

治承四年（一一八〇）八月、源義朝の三男頼朝は、配流先の伊豆国で兵を挙げました。初戦に勝利するも石橋山の合戦で破れて安房国に逃れ、そこから上総国・下総国の諸将を味方につけ、隅田川を渡ります。滝野川・板橋を経て、府中六所明神へ向かい、さらにそこから鎌倉を目指します。そして鎌倉の大倉に本拠を築いた頼朝は、後に鎌倉幕府初代将軍として、その場所に政権を樹立することになるのです。

この途次の十月、源頼朝は軍勢を率いて滝野川の松橋に陣をとったといわれています。松橋とは、当時の金剛寺の寺域を中心とする地名で、ここから見る石神井川の流域は、兩岸に岩が切り立って、松や楓があり、深山幽谷の趣をもっていました。弁財天を信仰した頼朝は、崖下の洞窟の中に祀られていた弘法大師作と伝えられる弁財天に祈願して、金剛寺の寺域に弁天堂を建立し、田地を寄進したと伝えられています。

この地域は、弁天の滝や紅葉の名所として知られていました。現在、金剛寺が紅葉寺とも呼ばれるところに、この頃の名残がみられます。

平成元年三月

東京都北区教育委員会

北区滝野川（石神井川南岸地域）や板橋を経由して、府中六所明神へ向かいます。そこから、さらに鎌倉を目指し、鎌倉に本拠を築きました。頼朝は、後に鎌倉幕府初代将軍として、その場所に政権を樹立することになるのです。

この途次に、源頼朝は軍勢を率いて滝野川の松橋に陣をとったといわれています。松橋とは、当時の金剛寺の寺域を中心とする地名で、ここから見る石神井川の流域は、兩岸に岩が切り立って、松や楓があり、深山幽谷の趣をもっていました。

弁財天を信仰した頼朝は、崖下の洞窟の中に祀られていた弘法大師作と伝えられる弁財天に祈願して、金剛寺の寺域に弁天堂を建立し、田地を寄進したと伝えられています。

この地域は、弁天の滝や紅葉の名所として知られていました。現在、金剛寺が紅葉寺とも呼ばれるところに、この頃の名残がみられます。





金剛寺（こんごうじ）は、東京都北区滝野川 3 丁目にある真言宗豊山派の寺院です。

私のように石神井川を上ってくるＪＲ線・東京メトロ南北線・都電荒川線王子駅より徒歩できますと、１５分ほどの地にあります。



バス(国際興業バス 王 22 系統)で紅葉橋で下車 しますと、徒歩で２分。

拝観は無料で、日中の時間帯のみ受け付けています。

■ 金剛寺

寺伝によりますと、弘法大師・空海がこの地を遊歴し自ら不動明王像を彫ったと言われています。この不動像は、現在でも当寺のご本尊になっています。

その後、平安時代末期・源頼朝の時代に源頼朝自身が当地に布陣を張ったことがあり、堂宇を建立したり、田園を寄進したりしたと伝えられています。

また、当寺院付近は豊島氏の支族滝野川氏の居館である滝野川城跡であるともいわれ、滝野川の歴史を知る上でも価値があるものとされています。

所在地 滝野川 3-88-17 連絡先 03-3910-3170 開設時間 9:00-17:00
花・木 紅葉 11月



当寺一带は、江戸時代から紅葉の名所として知られていたことから、「紅葉寺」の別称でも知られています。

一時期、荒廃していましたが、戦国時代・天文年間に阿闍梨宥印という僧が再興し、真言宗の寺院にしました。

阿闍梨

あじやり、あざり、acārya アーチャーリヤ、阿舍梨・阿闍梨耶とも音写)

サンスクリットで「軌範」を意味し、漢語では師範・軌師範・正行とも表記する。その意味は本来、正しく諸戒律を守り、弟子たちの規範となり、法を教授する師匠や僧侶のこと。

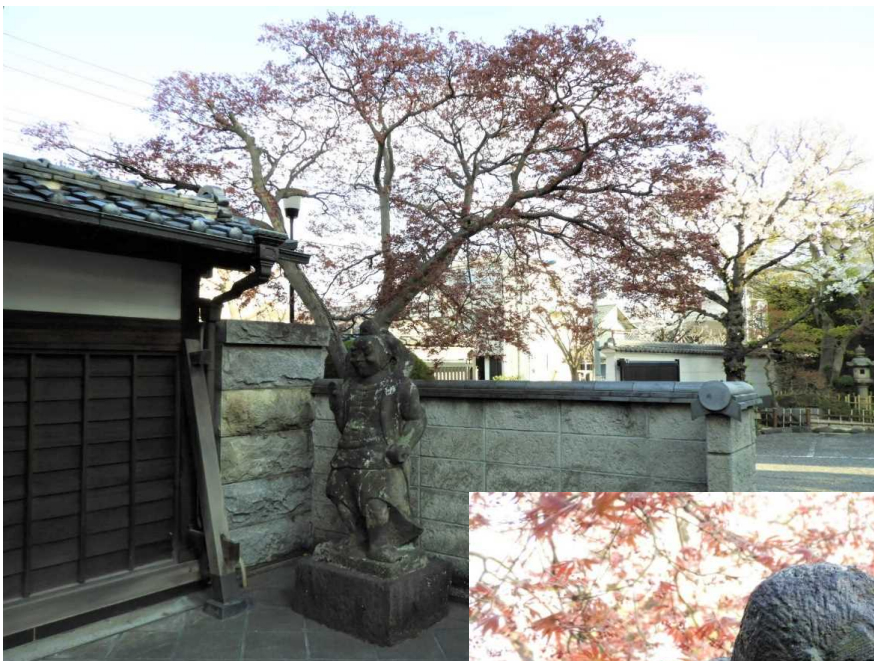
(【Wikipedia】より作成)







当地付近は滝も多く、江戸時代から滝遊びや紅葉の見物さらに松橋弁天の参拝などで多くの人々が来ていたと言われています。江戸市中でも、松橋弁天の存在は良く知られていました。



この付近一帯は、徳川八代将軍吉宗の命により、カエデが植樹され、金剛寺も「紅葉寺」として今も親しまれています。

境内には富士講の先達として活躍した安藤富五郎の顕彰碑もあります。



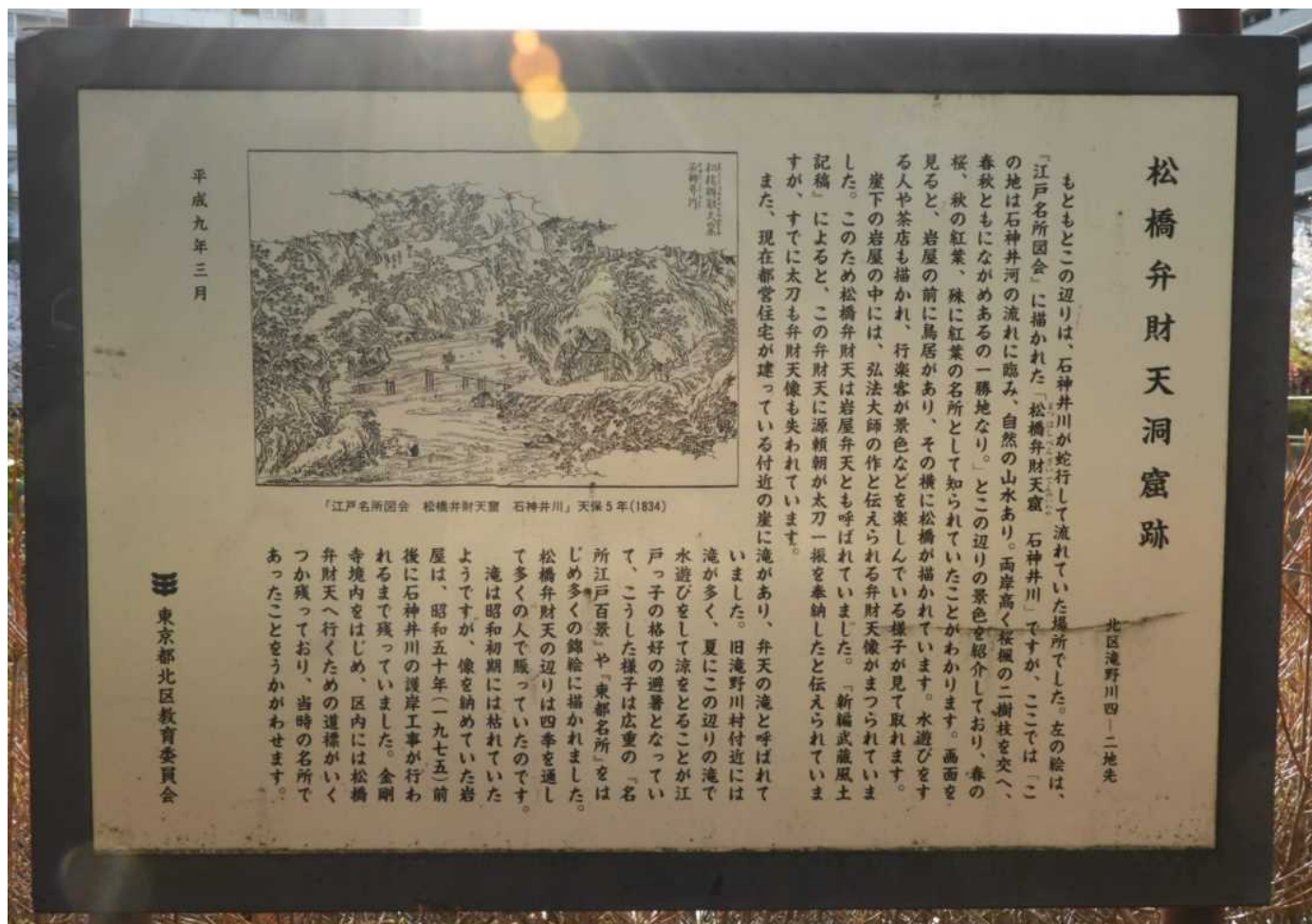
■ 松橋弁天

かつて金剛寺領域内には「松橋弁天」と呼ばれる弁才天を祀った祠がありました。

松橋弁天は、当寺傍に流れる石神井川の崖下にあった洞窟に祀られていた弁才天です。弁才天は弘法大師の作とも言われ、当洞窟付近は、かつては金剛寺の領地内であった。「松橋」は、当地の旧名で、弁才天は岩屋にあったことから岩屋弁天とも言われました。

かつて当地に布陣した源頼朝が弁才天に太刀を奉納したと言われていますが、太刀も弁天像も現在はありません。弁天像を納めていた岩屋も、1975年頃に石神井川の護岸工事が行われた際に取り壊されてしまいました。

(【Wikipedia】より作成)





洞窟があったと言われる
窪地です

洞窟には、弁財天が祀ら
れていたのですが、洞窟と
共にいまはありません。

弁才天が岩屋にあったこ
とから「岩屋弁天」とも言わ
れました。







サクラの名所
でもあり、北区
区民やここを
訪れる人の憩
いのばでもあ
ります。



